

# 嶋満神社便り

令和五年二月号(第四十号)

発行 嶋満神社奉賛会

「八幡さん」ってどんな神様？ 再び・・・

本誌の平成二十七年四月(第十五号)から二十八年一月(第一八号)に四回にわたって掲載しました八幡さんとはどういう神様なのか」という記事に関して、少し前にテレビで興味ある内容を放送してしまいましたので、その部分をご紹介させていただきたいと思えます。

KBSTテレビで放映された「氏神様」という、様々な視点から「氏神」の成り立ちを歴史的に見ていく数回のシリーズでした。そのうち、令和三年九月十六日の放送では、「武家の守護神」としての「八幡神」について皇学館大学の岡野友彦氏、千種清美氏のお二人の先生の対談と、文筆家、白須信哉氏の現地での考察を二本柱として語られていました。

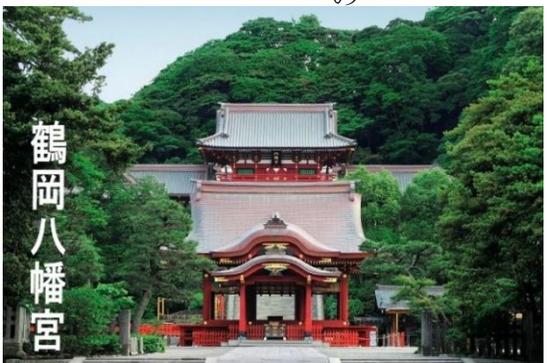
「武家の」と言っても、もちろん「八幡神」は昨年の大河ドラマでおなじみの通り「源氏の」守護神です。

ではなぜ八幡神が源氏の守護神だったのか？  
実は源頼朝が鎌倉に鶴岡八幡宮を造営するずっと以前からそうだったのです。

元々は平安時代、嵯峨天皇は大変な「子だくさん」で経費を賄いきれないので「源」という姓を与えて「臣籍降下」つまり家臣にしてしまいました。これが「公家源氏」であり、その中から「武家源氏」が出てくるのです。

そして「公家源氏」の時代から八幡様への天皇のお使いは源氏が務めることが儀式書に書いてあり、結果、「武家源氏」の登場以前から源氏の氏神は八幡神であるという自然な流れとなっていたようです。

とはいえ、九州宇佐の地に現れ、京都岩清水に勧請されていた八幡神が



すんなりと源氏の旗頭となるのには、頼朝のご先祖である源頼義、義家の存在が大きいと、鶴岡八幡宮の権禰直、阿久津卓也氏は言います。

頼義は前九年の役の乱を平定した帰りに鎌倉に立ち寄り、この地の戦略的な重要性を認識してこの地に八幡神を勧請しました。

義家は後三年の役を平定し、また石清水八幡宮で元服をしたので「八幡太郎義家」と呼ばれています。

その後、この八幡宮は「由比若宮」と呼ばれていましたが、現在の鶴岡八幡宮の境内地に移転したので、鶴岡八幡宮の参道である「段葛」…だんかずら…のことを「若宮大路」と言うようになったということです。

さてその後、頼朝から領地を与えられた武士たちがその土地に、武家の棟梁たる頼朝が崇敬していた八幡神をお祀りすることによって、また源氏である足利氏や徳川氏によって八幡信仰が全国に広がっていったのは、本誌第十五号で述べたとおりです。

さて鎌倉時代の源氏の政権は三代將軍実朝で終わり、その後の將軍は源氏ではなく都から招いた藤原氏や親王が務めましたし、代々執権として実権を握っていた北条氏は「平氏」でした。

しかしその後「八幡神」がずっと鎌倉の中心として続いていったのは、八幡神が「源氏の氏神」から「武門の神」へと置き換わっていったことの証である、そしてそこには「頼朝信仰」に近いものもあつたのでは、と、岡野友彦氏は言います。

こうしてみると、昨年大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」が、そして劇中の大泉洋の表情がより濃い印象で甦ってくるようではありませんか。

最後になりましたが、年末年始の拝殿お飾りと撤去、また沢山のお供えなど、皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。御礼申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

